

第4回技術検討会 議事概要

1. 日 時 平成30年3月23日（金） 10:00～12:00

2. 出席者

日野伸一（九州大学 副学長）【委員長】
千田昇（大分大学名誉教授）
松田泰治（九州大学大学院 工学研究院社会基盤部門教授）
木村嘉富（国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部長）
小橋秀俊（国立研究開発法人土木研究所）
熊本県
南阿蘇村
高森町
九州地方整備局
国土技術政策総合研究所 熊本地震復旧対策研究室

3. 議 題

- ・ 法面調査
- ・ ジャストボーリング調査
- ・ 調査結果を踏まえた渡河部橋梁形式の検証
- ・ 断層変位が橋に及ぼす影響を最小化するための方策
- ・ 施工計画の概要

4. 議事概要

第3回の技術検討会以降に実施した地質調査等の結果報告を行い、阿蘇大橋設計の審議を行った。

● 広域的な活断層分布（報告）

平成29年10月31日に公開された国土地理院の都市圏活断層図「阿蘇」と第3回技術検討会までに想定していた推定活断層F5との整合性を検証し、ほぼ一致していることを確認。

● 法面調査（審議）

左右岸で実施した切土法面観察より確認された不連続面の評価の妥当性について検証し、評価の妥当性について承認された。

● ジャストボーリング調査（審議）

PR1～3、A2における支持層の設定について確認。現設計の支持層設定ラインが支持層として承認された。

● 渡河部橋梁形式の検証（報告・審議）

第3回技術検討会以降に変更した橋梁計画の変更点として、断層変位を考慮した渡河部橋梁形式は現形式のままでもよいか審議。橋脚から断層変位を考慮する推定活断層F5、粘土化帯までの離隔が確保されているため、現行の形式で問題ないと承認された。

● 断層変位を考慮した設計（報告・審議）

阿蘇大橋の耐震設計の考え方について報告。

断層変位が橋に及ぼす影響を最小化するための方策について検証し、承認を得た。

● 施工計画の概要（報告）

今後の施工計画について報告。